

筋学

筋系

筋系

一般用語

筋

筋頭

筋腹

筋尾 (注1)

附着

起始

停止

筋上膜

筋周膜

筋内膜

紡錘状筋

扁平筋

直筋

三角形筋

方形筋

二腹筋

二頭筋

三頭筋

四頭筋

半羽状筋

羽状筋

多羽状筋

輪筋

皮筋

関節筋

骨格筋

外転筋

内転筋

回旋筋

屈筋

伸筋

回内筋

回外筋

対立筋

括約筋

散大筋

区画

筋膜 (注2)

浅筋膜

深筋膜

頭と頸の筋膜

体幹の筋膜

壁側筋膜 (注3)

漿膜外筋膜 (注3)

臓側筋膜 (注3)

体肢の筋膜

筋の筋膜

被覆筋膜

筋の固有筋膜

腱

腱周膜

中間腱

腱画

腱膜

腱弓

筋滑車

滑液包

滑液鞘

頭部の筋

外眼筋; 眼筋

耳小骨筋

舌筋

軟口蓋と口峽の筋

顔面筋

頭蓋表筋

後頭前頭筋

前頭筋

後頭筋

側頭頭頂筋

帽状腱膜

鼻根筋

鼻筋

横部

鼻翼部; 翼部

鼻中隔下制筋

眼輪筋 (注4)

眼瞼部

瞼縁束; 毛様束

深部; 涙嚢部

眼窩部

皺眉筋

眉毛下制筋

前耳介筋

上耳介筋

後耳介筋

口輪筋

縁部

唇部

口角下制筋

オトガイ横筋

笑筋

大頬骨筋

小頬骨筋

上唇挙筋; 眼窩下筋

上唇鼻翼挙筋; 眼角筋

下唇下制筋

口角挙筋; 犬歯筋

口角筋軸 (注5)

頬筋

オトガイ筋

咀嚼筋

咬筋

浅部

深部

側頭筋

外側翼突筋

上頭

下頭

内側翼突筋

頬咽頭筋膜

咬筋筋膜

耳下腺筋膜

側頭筋膜

浅葉

深葉

頸部の筋

広頸筋

頸長筋

頭長筋

前頭直筋

外側頭直筋

前斜角筋

中斜角筋

後斜角筋

†最小斜角筋

胸鎖乳突筋

後頭下筋 (注6)

大後頭直筋

小後頭直筋

上頭斜筋
 下頭斜筋
 舌骨上筋
 顎二腹筋
 前腹
 後腹
 茎突舌骨筋
 顎舌骨筋
 オトガイ舌骨筋
 舌骨下筋
 胸骨舌骨筋
 肩甲舌骨筋
 上腹
 下腹
 胸骨甲状筋
 甲状舌骨筋
 †甲状腺挙筋
 頸筋膜
 浅葉
 胸骨上隙
 気管前葉
 甲状腺提鞮帯 (注7)
 椎前葉
 頸動脈鞘
 咽頭筋
 喉頭筋
 背部の筋
 僧帽筋
 下行部
 水平部; 横行部
 上行部
 †項横筋
 広背筋
 大菱形筋
 小菱形筋
 肩甲挙筋
 上後鋸筋
 下後鋸筋
 腰外側横突間筋
 後部
 前部
 頸前横突間筋
 頸外側後横突間筋
 項筋膜
 固有背筋 (注8)

棘横突筋
 板状筋
 頭板状筋
 頸板状筋
 脊柱起立筋
 脊柱起立筋腱膜
 筋間中隔
 腸筋
 腰腸筋
 腰部; 脊柱起立筋腰部の外側部 (注9, 10)
 胸部
 頸腸筋
 最長筋
 胸最長筋
 腰部; 脊柱起立筋腰部の内側部 (注10)
 頸最長筋
 頭最長筋
 棘筋
 胸棘筋
 頸棘筋
 頭棘筋 (注11)
 横突棘筋
 半棘筋
 胸半棘筋
 頸半棘筋
 頭半棘筋
 多裂筋 (注12)
 腰多裂筋
 胸多裂筋
 頸多裂筋
 回旋筋
 腰回旋筋
 胸回旋筋
 頸回旋筋
 棘間筋
 腰棘間筋
 胸棘間筋
 頸棘間筋
 横突間筋
 腰内側横突間筋
 胸横突間筋
 頸内側後横突間筋
 胸腰筋膜

後葉; 浅葉
 中葉
 前葉; 深葉; 腰方形筋
 筋膜
 胸部の筋
 †胸骨筋
 大胸筋
 鎖骨部
 胸肋部
 腹部
 小胸筋
 鎖骨下筋
 前鋸筋
 肋骨挙筋
 長肋骨挙筋
 短肋骨挙筋
 外肋間筋
 外肋間膜
 内肋間筋
 内肋間膜
 最内肋間筋
 肋下筋
 胸横筋
 胸筋筋膜
 鎖骨胸筋筋膜
 胸内筋膜; 胸部の壁側筋膜
 横隔膜
 腰椎部
 右脚
 左脚
 正中弓状靱帯
 内側弓状靱帯
 外側弓状靱帯
 肋骨部
 胸骨部
 大動脈裂孔
 食道裂孔
 横膈食道膜
 腱中心
 大静脈孔
 胸肋三角
 腰肋三角
 横隔膜筋膜
 腹部の筋

腹直筋
 腱画
 腹直筋鞘
 前葉
 後葉
 弓状線
 錐体筋
 外腹斜筋
 単径靭帯
 裂孔靭帯
 恥骨櫛靭帯
 反転靭帯
 浅単径輪
 内側脚
 外側脚
 脚間線維
 内腹斜筋
 精巢挙筋; 拳舉筋(♂)

 腹横筋
 単径鎌; 結合腱
 深単径輪
 単径管
 白線
 白線補束
 臍輪
 半月線
 腰方形筋
 腰三角
 腹部の筋膜(注13)
 腹部の臓側筋膜
 器官固有の筋膜
 腹膜外筋膜
 腹膜外靭帯
 腹部の壁側筋膜
 器官固有の筋膜
 腸腰筋筋膜(注14)
 腰筋筋膜
 腸骨筋筋膜
 腸恥筋膜弓
 横筋筋膜
 窩間靭帯
 腸骨恥骨靭帯
 臍筋膜(注15)
 腹部の被覆筋膜

深被覆筋膜
 中間被覆筋膜
 浅被覆筋膜
 陰核提靭帯(♀)
 陰茎提靭帯(♂)
 疎性結合組織
 腹部の皮下組織
 膜様層
 陰核ワナ靭帯(♀)
 陰茎ワナ靭帯(♂)
 脂肪組織層
 骨盤部の筋膜
 臓側骨盤筋膜
 器官固有の筋膜
 直腸前立腺筋膜; 直腸膀胱中隔(♂)
 直腸腔筋膜; 直腸腔中隔(♀)
 腹膜外筋膜
 腹膜外靭帯
 壁側骨盤筋膜; 骨盤内筋膜
 膜
 器官固有の筋膜
 閉鎖筋膜
 骨盤筋膜腱弓
 梨状筋筋膜
 上骨盤隔膜筋膜
 恥骨膀胱靭帯; 恥骨前立腺内側靭帯(♂)
 恥骨膀胱内側靭帯(♀)
 恥骨膀胱筋
 恥骨前立腺靭帯; 恥骨前立腺外側靭帯(♂)
 恥骨膀胱外側靭帯(♀)
 膀胱外側靭帯
 直腸膀胱筋
 仙骨前筋膜
 直腸仙骨筋膜
 下骨盤隔膜筋膜
 骨盤隔膜

上骨盤隔膜筋膜
 下骨盤隔膜筋膜
 肛門挙筋
 恥骨尾骨筋
 恥骨会陰筋
 恥骨前立腺筋; 前立腺挙筋(♂)
 恥骨脛筋(♀)
 恥骨肛門筋
 恥骨直腸筋
 腸骨尾骨筋
 肛門挙筋腱弓
 尿生殖裂孔
 坐骨尾骨筋; 尾骨筋
 外肛門括約筋
 皮下部
 浅部
 深部
 肛門尾骨靭帯
 恥骨尾骨筋腱
 腸骨尾骨筋縫線
 外肛門括約筋浅部附着
 着
 上肢の筋
 区画
 上腕の前区画; 上腕の屈筋区画
 上腕の後区画; 上腕の伸筋区画
 前腕の前区画; 前腕の屈筋区画
 浅部
 深部
 前腕の後区画; 前腕の伸筋区画
 外側部
 筋
 三角筋
 鎖骨部
 肩峰部
 肩甲棘部
 棘上筋
 棘上筋膜
 棘下筋
 棘下筋膜

小円筋	短母指外転筋	筋
大円筋	短母指屈筋	腸腰筋
肩甲下筋	浅頭	腸骨筋
上腕二頭筋	深頭	大腰筋
長頭	母指対立筋	†小腰筋
短頭	母指内転筋	大殿筋
上腕二頭筋腱膜：線維性腱膜	斜頭	中殿筋
烏口腕筋	横頭	小殿筋
上腕筋	小指外転筋	殿筋腱膜
上腕三頭筋	短小指屈筋	大腿筋膜張筋
長頭	小指対立筋	梨状筋
外側頭	[手の]虫様筋	内閉鎖筋
内側頭；深頭	[手の]背側骨間筋	上双子筋
肘関節筋	掌側骨間筋	下双子筋
肘筋	筋膜	大腿方形筋
円回内筋	腋窩筋膜	縫工筋
上腕頭	腋窩提靭帯	大腿四頭筋 ^(注16)
尺骨頭	三角筋膜	大腿直筋
橈側手根屈筋	上腕筋膜	直頭
長掌筋	内側上腕筋間中隔	反転頭
尺側手根屈筋	外側上腕筋間中隔	外側広筋
上腕頭	前腕筋膜	中間広筋
尺骨頭	手背筋膜	内側広筋
浅指屈筋	[手の]伸筋支帯	膝関節筋
上腕尺骨頭	浅横中手靭帯	恥骨筋
橈骨頭	手掌腱膜	長内転筋
深指屈筋	横束	短内転筋
長母指屈筋	[手の]屈筋支帯	大内転筋
方形回内筋	腱交叉	小内転筋
腕橈骨筋	下肢の筋	薄筋
長橈側手根伸筋	区画	外閉鎖筋
短橈側手根伸筋	大腿の前区画；大腿の伸筋区画	大腿二頭筋
総指伸筋；指伸筋	大腿の後区画；大腿の屈筋区画	長頭
腱間結合	大腿の内側区画；大腿の内転筋区画	短頭
小指伸筋	下腿の前区画；下腿の伸筋区画	半腱様筋
尺側手根伸筋	下腿の後区画；下腿の屈筋区画	鶯足
上腕頭	浅部	半膜様筋
尺骨頭	深部	前脛骨筋
回外筋	下腿の外側区画；下腿の腓骨筋区画	長趾(指)伸筋
長母指外転筋		第三腓骨筋
短母指伸筋		長母趾(指)伸筋
長母指伸筋		長腓骨筋
示指伸筋		短腓骨筋
短掌筋		下腿三頭筋
		腓腹筋

外側頭
 内側頭
 ヒラメ筋
 踵骨腱：アキレス腱
 足底筋
 膝窩筋
 後脛骨筋
 長趾(指)屈筋
 長母趾(指)屈筋
 短母趾(指)伸筋
 短趾(指)伸筋
 母趾(指)外転筋
 短母趾(指)屈筋
 内側頭
 外側頭
 母趾(指)内転筋
 斜頭
 横頭
 小趾(指)外転筋
 †第五中足骨外転筋
 †小趾(指)対立筋
 短小趾(指)屈筋
 短趾(指)屈筋
 足底方形筋
 [足の]虫様筋
 [足の]背側骨間筋
 底側骨間筋
 筋膜
 大腿筋膜
 腸脛靭帯
 外側大腿筋間中隔
 内側大腿筋間中隔
 内転筋管
 広筋内転筋間中隔：前内
 側大腿筋間中隔
 内転筋腱裂孔：腱裂孔
 腸骨筋膜 (注14)
 筋裂孔
 腸恥筋膜弓
 血管裂孔
 大腿管
 大腿輪
 大腿輪中隔
 大腿三角
 伏在裂孔

鎌状縁クマジョウエン：弓状縁
 上角：上脚
 下角：下脚
 篩状筋膜
 下腿筋膜
 前下腿筋間中隔
 後下腿筋間中隔
 ヒラメ筋[の]腱弓
 [足の]上伸筋支帯
 [足の]屈筋支帯
 [足の]下伸筋支帯
 上腓骨筋支帯
 下腓骨筋支帯
 足背筋膜
 足底腱膜
 横束
 浅横中足靭帯
 腱鞘と滑液包
 一般用語
 皮下滑液包
 筋下滑液包
 筋膜下滑液包
 腱下滑液包
 腱鞘
 線維層
 線維鞘
 滑膜層
 滑液鞘
 腱間膜
 頸の滑液包
 口蓋帆張筋の滑液包
 喉頭隆起皮下包
 舌骨下包
 舌骨後包
 上肢の滑液包
 僧帽筋の腱下包
 †肩峰皮下包
 肩峰下包
 三角筋下包
 †烏口腕筋の滑液包
 棘下筋の腱下包
 肩甲下筋の腱下包
 大円筋の腱下包
 広背筋の腱下包
 肘頭皮下包

†肘頭腱内包
 上腕三頭筋の腱下包
 二頭筋橈骨包
 †骨間肘包
 短橈側手根伸筋の滑液包
 上肢の腱鞘
 結節間腱鞘
 手根腱鞘
 掌側手根腱鞘
 長母指屈筋の腱鞘
 橈側手根屈筋の腱鞘
 指屈筋の総腱鞘
 背側手根腱鞘
 長母指外転筋・短母指伸筋の腱鞘
 長・短橈側手根伸筋の腱鞘
 長母指伸筋の腱鞘
 [総]指伸筋・示指伸筋の腱鞘
 小指伸筋の腱鞘
 尺側手根伸筋の腱鞘
 指の線維鞘
 [線維鞘の]輪状部
 [線維鞘の]十字部
 指の滑液鞘
 腱のヒモ
 長いヒモ
 短いヒモ
 下肢の滑液包
 皮下転子包
 大殿筋の転子包
 中殿筋の転子包
 小殿筋の転子包
 梨状筋の滑液包
 内閉鎖筋の坐骨包
 内閉鎖筋の腱下包
 殿筋の筋間包
 大殿筋の坐骨包
 腸恥包
 腸骨筋の腱下包
 大腿二頭筋の上滑液包

膝蓋前皮下包
膝蓋前筋膜下包
膝蓋前腱下包
膝蓋上包
膝蓋下皮下包
深膝蓋下包
脛骨粗面皮下包
縫工筋の腱下包
鵞足包
大腿二頭筋の下腱下包
膝窩筋下陥凹
腓腹筋の外側腱下包
腓腹筋の内側腱下包
半膜様筋の滑液包
外果皮下包
内果皮下包
前脛骨筋の腱下包
踵骨皮下包
踵骨腱の滑液包; アキレス腱の滑液包
下肢の腱鞘
前足根腱鞘
前脛骨筋の腱鞘
長母趾(指)伸筋の腱鞘
長趾(指)伸筋の腱鞘
脛側足根腱鞘
長趾(指)屈筋の腱鞘
後脛骨筋の腱鞘
長母趾(指)屈筋の腱鞘
腓側足根腱鞘
腓骨筋の総腱鞘
長腓骨筋の足底腱鞘
趾(指)の腱鞘
趾(指)の線維鞘
[線維鞘の]輪状部
[線維鞘の]十字部
趾(指)の滑液鞘
腱のヒモ

筋学の注

注 1 筋尾 Cauda は筋頭 Caput の反対の端を意味する場所として一般的に使用されるので、(平 14)で新たに採用した。ただし筋頭と筋腹には筋の部分特定する用語として、長頭 Caput longum、前腹 Venter anterior のように使われ、筋名としても三頭筋 M. triceps、二腹筋 M. biventer のように使われる事例があるが、筋尾についてはこのように使われる事例はない。

注 2 (平 14)で、筋膜 Fascia に浅筋膜 Fascia superficialis と深筋膜 Fascia profunda の用語が採用された。日本語における伝統的な概念としては、浅筋膜は各体部において皮筋以外の筋系全体を一括して包む筋膜であり、頭の側頭筋膜浅葉、咬筋筋膜、頸の頸筋膜浅葉、胸の胸筋筋膜、上肢の上腕筋膜、前腕筋膜、手背筋膜、下肢の大腿筋膜、下腿筋膜、足背筋膜などを含み、さらに用語として採用されていないが浅背筋膜、浅腹筋膜をも含めた一貫した概念をなしている。深筋膜はこれより深く位置する骨格筋を包む筋膜を主として意味する。したがって以上の概念を表す用語として、存続させる意味があると考えられる。一方、(TA)では筋膜について別の意味を与えており、また浅筋膜と深筋膜についても言語によって意味が多様なために削除している。(TA)の注を以下に引用する。

筋膜は、鞘や膜状構造や他の剖出可能な結合組織の集合した構造物から成る。そのほとんどは器官や腔が発育する時にそのまわりに結合組織が凝縮密集することによって成る (condensation fascia)。あるものは器官が移動する時にあとに残され (migration fascia)、他のものは漿膜の表面が癒合する時に形成される (fusion fascia)。筋膜の名のもとに記された用語は、そのものに筋膜の語の使用を勧められるすべてのカテゴリーを含んでいる。それらには、筋の鞘だけでなく、内臓の被膜も、これらと関係する剖出可能な構造も含まれている。しかし、便宜と関連性とのためにこれらの全項目を筋の欄に入れることにした。今までに誰かによって筋膜と見なされたことのある構造が全て含まれているわけではない。1983 年の (NA5) は浅筋膜と深筋膜という用語を導入した。これらは、意味を限定しないで使われる一般用語としては使用を勧められない。英語ではこういう見方だった。すなわち、皮膚と筋の筋膜との間の結合組織はやはり筋膜であって、浅筋膜と呼ばれていた。これと対比して、筋や内臓や関連した構造の筋膜は深筋膜と呼ばれていた。しかし、これらの用語は英語中心であって、他の言語では同様には取り上げられて来なかった。こうして、国際的に理解されるために勧められる語は今や皮下組織 Tela subcutanea、筋の筋膜 Fascia musculorum そして臓側筋膜 Fascia visceralis である。問題点はこういうことである。浅筋膜は、英語では皮下組織の全体を表しているが、イタリア語では脂肪組織層 Panniculus adiposus を除外した部分を意味し、フランス語では脂肪組織層と疎性結合組織 Textus connectivus laxus (膜様層 Stratum membranosum より深層の) の両層を除外した部分を意味する。ところがドイツ語では、浅筋膜は筋の筋膜の浅層を表わし、従って脂肪組織層も膜様層も疎性結合組織も除外されている。おそらく、もはや勧められない筋膜という語を最も頻々と用いていたのは、前腹壁の皮下組織の部分 (Camper 筋膜、今の腹部の脂肪組織層; Scarpa 筋膜、今の腹部の膜様層) と、陰茎の皮下組織の部分 (Colles 筋膜、今の陰茎の膜様層) と、会陰の皮下組織の部分 (Colles 筋膜、今の会陰の膜様層) である。

注 3 (平 14)で、壁側筋膜 Fascia parietalis、漿膜外筋膜 Fascia extraserosalis、臓側筋膜 Fascia visceralis の用語が採用された。(TA)の注を以下に引用する。

壁側筋膜は漿膜(心膜、腹膜、胸膜および精巣鞘膜)の壁側葉の外方に位置し、体腔壁を裏打ちしている筋膜に用いる一般用語である。壁側筋膜は、その外方にある深包括筋膜 Fascia investiens profunda および(または)その内方にある壁側漿膜下組織 Tela subserosa parietalis から分離した層であることも、そうでないこともある。臓側筋膜は、漿膜の臓側葉の直ぐ外方に位置する筋膜ならびに内臓を直接とり囲む筋膜に用いる一般用語である。臓側筋膜は皮下組織から分離した層であることも、そうでないこともある。漿膜外筋膜 Fascia extraserosalis は壁側筋膜より内方に、そして臓側筋膜より外方に位置するその他の筋膜に用いる一般用語である。最も明らかな漿膜外筋膜は、それが靭帯を形成する骨盤にあり、子宮の基靭帯 Cardinal ligament のようなものである。

注 4 眼輪筋は(昭 62)までは眼瞼部・眼窩部・涙嚢部の 3 部に分けたが、(TA)の区分にしたがって 2 部に分け、涙嚢部を眼瞼部の一部に含めた。

注 5 (NA6/TA)で Modiolus anguli oris が採用され、(平 14)で口角筋軸と表記された。

- 注 6** 後頭下筋 Mm. suboccipitales は(NA4)で採用され頭部の筋に分類されたが、(TA)では頸部の筋に分類された。(NA4)では 8 つの筋が含まれていたが、(TA)では頭板状筋と頭長筋が外され、(平 14)では前頭直筋と外側頭直筋が外された。
- 注 7** 甲状腺提靭帯は、従来は甲状腺の両葉を輪状軟骨の側面につなぐ結合組織の肥厚部を指していたが、(TA)では甲状軟骨・輪状軟骨・気管から起こり甲状腺を吊す頸筋膜気管前葉の肥厚部とされた。
- 注 8** 固有背筋は、背部深層に位置する筋の項目名として(TA)で採用された。(TA)の注を以下に引用する。この筋群に属する筋はみな軸上筋であって脊髄神経の後枝で支配され、これだけが真の背筋と見なされよう。この意味で頸前横突間筋と頸外側後横突間筋と腰外側横突間筋は軸下筋で肋骨拳筋と相同であり、脊髄神経の前枝で支配されていて、真の背筋ではない。
- 注 9** 腸筋筋は(昭 62)までは腰腸筋筋・腹腸筋筋・頸腸筋筋の 3 部に分けたが、(TA)の区分にしたがって 2 部に分け、腹腸筋筋を腰腸筋筋の一部に含めその腹部とした。
- 注 10** 腰腸筋筋の腰部と胸最長筋の腰部は、(TA)にしたがって別名をつけ、両者をあわせて脊柱起立筋腰部と位置づける。
- 注 11** 頭棘筋は、一般的に頭半棘筋の最も内側の部分と考えられているが、(昭 62)および(TA)で採用されている。
- 注 12** (TA)にしたがって、多裂筋を腰・胸・頸の 3 部に分けた。
- 注 13** 腹部の筋膜の項目は(TA)にしたがった。(TA)の注を以下に引用する。
あげられた用語は、内方から外方への順に並べられ、拾い落としのないように、関連が分かるようにするために、今までに腹部の筋膜の部分と見なされたことのあるすべての構造についてそれを表すのに使われる用語を含んでいる。したがって筋膜という用語を使うことがもはや勧められない構造も含まれている。
- 注 14** 腹部の筋膜に含められる腸腰筋筋膜 Fascia iliopsoas は、下肢の筋膜に含められる腸骨筋膜 Fascia iliaca と同じものである。(昭 62)までは下肢の筋の項目に含められ、腸骨筋膜と呼ばれていた。(TA)では腹部の筋膜の項目で腸腰筋筋膜と腸骨筋膜が併記され、下肢の筋の筋膜の項目で腸骨筋膜と表記される。腸骨筋の筋膜は(TA)にしたがって腸腰筋筋膜の一部とし、腸骨筋筋膜と表記した。
- 注 15** 臍筋膜は、横筋筋膜のうち臍の後ろで厚くなった部分で、(TA)にしたがって加えた。
- 注 16** 大腿四頭筋の停止腱のうち、膝蓋骨より遠位部分を膝蓋靭帯という(関節学、62 ページを参照)。腱反射などでは膝蓋腱反射と称される。